

病床数とリハビリ体制が充実した新透析棟―四日市市生桑町のみたき総合病院で



## 新透析棟オープン リハビリ体制充実 四日市・みたき総合病院

四日市市生桑町のみたき総合病院で、新透析棟がオープンした。病床数を二倍に増やし、リハビリ体制を充実させた。

新透析棟には五十四人分のベッドと透析の治療機器

きょう四日市で

夜間HIV検査

十二月一日の「世界エイズデー」に合わせ、四日市市保健所は同日、夜間に臨

を設置。病院本館の透析センターと合わせてベッドは計九十七床となった。午前と午後の二回で一日最大百九十四人の患者を受け入れられる。三人の理学療法士が常駐し、ベッドに横になった状態で透析治療をしながら、足の筋力を維持するリハビリが受けられる。

透析患者の増加を受け、昨年秋ごろから新透析棟の建設を始め、今年十月に完成した。災害時にも治療を続けられる体制づくりとして、透析に必要な水は地下水を利用し、自家発電の設備も整えた。

(神尾大樹)

(c)中日新聞社 無断転載、複製、頒布は著作権法により禁止されています